



名 鍍 会 報 告

H21. 6

名鍍会の活動についてご報告いたします。

平成21年5月13日（水）、愛知県鍍金工業組合2階講堂において、5月度例会が行われました。

今回は、参加者39名で、旭硝子株式会社 AGC 化学品カンパニー 名古屋支店の坂田 順一様、作田 裕哉様に「苛性ソーダ・塩酸の市況について」というテーマで、ご講演いただきました。

最初に旭硝子・化学品事業についてご説明頂き、その後から電解ソーダ工業の概要を話していただきました。

苛性ソーダは食塩水と水をイオン交換膜で隔て、電気を流すことにより苛性ソーダを作ります。この時に塩素ガスと水素ガスも同時に出来ます。ここから苛性ソーダを薄めて液体苛性ソーダ（25%）を作り、塩素ガスと水素ガスをまぜ、燃焼反応を起こして塩酸を作り、塩素とエチレンを混ぜて塩化ビニル樹脂を作ったりします。苛性ソーダと塩素はどちらか片方だけ作るわけにはいかず、世界的な需要と供給バランスによって苛性ソーダが品薄になったりする時があります。影響する比率が大きいのは苛性ソーダであればオーストラリアへの輸出量、塩素であれば塩化ビニルの材料の輸出量によって変わるそうです。



最後に市況について話していただきました。苛性ソーダ、塩素ともに需要量が下がりつつあり、さらにリーマンショック以降の落ち込みが激しいそうです。それ以外にもオーストラリア向けの苛性ソーダの値下げがあり、大手会社の事業の撤退などがあるために今後もタイトな生産が続くとの事でした。原油が下がったの値下げはないそうです。

次回は、三進製作所様の講演予定です。多数の方の参加をお待ちしています。

R. I 記